



よき師 よき友 つどひ結び

法政大学 経営学部同窓会報

www.houseikeieidousoukai.com/

Vol. 3

(通巻 16 号)

発行 法政大学経営学部同窓会

発行人 岩井 昭(会長)

編集人 中西 文行(広報担当)

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
ポアソナード・タワー17階経営学部資料室
TEL/FAX. 03-5382-9344

奥西新学部長

岩井会長対談



奥 奥西先生、今日はお忙しいところありがとうございます。また、学部長就任おめでとうございます。

奥 こちらこそ、よろしく願っています。卒業生の皆さまが大変興味あることがいくつかあるかと思っています。まず、大学の現状と今後につきまして、先生がご存じの範囲でお教えいただけますか。

奥 田中総長が就任されてから、「H O S E I 2030」という長期的なビジョン、計画づくりがスタートしています。これは、単に長期的なビジョンを描くだけでなく、それに向かつて実際にどのように実現していくかという点に関して、さまざまな動きがスタートしていると承知しています。

奥 田中総長は法政の学生が世界のどこでも通用するようにと「実践知」という言葉を使われるようになった。この言葉は物事を実際に実現されるのではないかなと、大変期待をしております。

奥 私も同感です。経営学部の場合、特に経営学という学問は実践的な性格を持っており、非常にびつたりくる標語かなと思っています。岩 経営学部の現状と「実践知」に基づく方向性を先生からお話いただけますか。

奥 ご存じのように経営学部は1959年に日本の大学の中では比較的早い時期に、経営学部・経営学科でスタートしました。しかし、一学科では大規模授業が多く、また経営学は非常に幅広い分野を持つ学問です。で、学生自身が興味のある、そして得意な分野を学べるような体制にすべきだということで、2003年に3学科体制がスタートしました。しかし数年前から新たな問題が指摘されるようになってきました。一つは、3学科体制でも学科間の垣根があまり高くないので、実際はどの学科に入っても同じようなことを勉強できるのではないかと。更に、先ほどの「実践知」にも関係するのですが、学生の考えとして、1・2年生の時に経営学の専門の

授業が十分でなく、「経営学を勉強したい」と思っ入学してきたけれども、経営学の詳しい内容を学べるのは主に3・4年生になっている。その点は改善したいと思っております。ただ市ヶ谷キャンパスは非常に狭隘で、1・2年生のカリキュラムの中に専門の科目を増やすことは教室事情の点から難しい面があり、今悩んでおります。

奥 学部間・学科間の垣根も低くしようという、法政大学で学ぶ学生たちにとっては色々なことが学べばいいかなと思います。ところで、先生のプロフィールをお伺いしたいと思いますが、80年に東京大学を卒業された。それからコーネル大学で博士号を取られた。またハワイ大学でも研究をされていたとのことですが。

奥 今は厚生省と合併しましたが「労働省」という役所で10年近く働いておりました。主に調査畑の仕事でした。大学で経済学を学んだこともあり、こういう仕事は自分でも好きだったので、本当にそういう研究的な仕事をしたいのであれば、思い切ってアメリカに留学して、大学院で勉強し直したいという気持ちで募り、人事院の留学制度を使って修士課程に留学し修士を取りました。帰国してさらに2年働き、その後完全に役所を辞めて博士課程に再度留学しました。

奥 その後ハワイへ？

奥 はい。ハワイのイースト・ウエストセンターという、アメリカ政府の研究所なのですが、アジアのことを熱心に調査研究しているところと縁があって、就職しました。

奥 では、日本に戻られてということではなくて、アメリカから太平洋を渡ってハワイに行かれた、ということですね。そこで、イースト・ウエストセンターで研究も兼ねてお仕事をされたと思うのですが、ご専門は労働関連の経済学ですか。

奥 もともとの専門は「労働経済学」です。ただ、ハワイの就職した研究所は「人口部門」で、多くは人口学者や社会学者の集団でした。

奥 人口学とは、簡単に言いますとどういう学問なのでしょう。

奥 人口学は大きなテーマが二つあります。「出生」と「死亡」です。人が「何人生まれ」て「何人死ぬ」のか。それによって人口変動がおきますので、



それに関連すること

を研究する分野です。岩 として法政大学で1995年の秋から助教、98年から教授をなさり、本年学部長にご就任されました。経営学部の2016年の受験状況はいかがでしたでしょうか。

奥 近年は3学科あるうち「市場経営学科」、主にマーケティングやファイナンスの科目がある学科ですけれども、ここは数年前から非常に女子学生の人数が高く、今年は男女比がほぼ半々になっております。

奥 間もなく逆転する可能性もありますね。奥 それもあると思っています。全体では、女性性は約900人の入学者中300人ちよつとですから、30数パーセントですね。全体ではやはり男のほうが多いという傾向はまだ変わっていません。

奥 経営学部の他の学科は男性優位ですか？奥 そうですね。経営学科と経営戦略学科は男性が女性の倍ぐらいです。岩 受験生のみなさんは「市場経営学科」のマーケティングやファイナンスということに大変興味を持たれているのでしょうか。これはひとつの経済状況の動向かもしれません。

奥 女性性はわりとそういう世の中の変化に敏感かもしれませんね。岩 将来の就職も考えて、そういう学科に受験生が集まるのかと思いますが、その傾向を踏まえて、今後の経営学部、とりわけスーパースター大学（SGU）のカリキュラムについて、お伺いしたいのですが。

奥 一般的な日本人学生用のカリキュラムの改革とダブると思いますが、グローバル対応というのは、非常に大きな課題だと思います。私は、グローバル化、つまり英語で授業を行うという様なことは、遅かれ早かれ広めていかなければならないと考えていました。

奥 それは当然ですね。MBAを取るには絶対的な要素ですからね。奥 ビジネスの世界では英語は明らかに世界的な公用語になっていますし、SGU申請の準備段階で、大学からも英語での授業を「経営学部」にやってほしい」という要請がありま



した。そして、それを受けましよう。実はその時点で手を挙げたのは学部では経営学部だけでした。結果的に人間環境学部も同時にスタートすることになりましたが、もともとそれでやりますとなった時に、やってくれる先生は一体どのくらいかと、心配もありました。しかし、これが嬉しい悲鳴で、次々に手を挙げてくださったのです。

奥 先生ももちろん：

奥 もちろんやります。私が避けたいと思っただのは、「英語で授業をやってもいいよ」と言う先生が限られていると、その先生のご専門科目だけの編成になってしまうわけです。カリキュラム体系として、非常に不揃いで、それは困るなと思ってました。

奥 偏ってしましますよね。

奥 ところが経営学部の場合、主要な分野のほぼ全てに関して先生を揃えることができました。さらに、任期付きの教員の方を2人採用していいということになりました。そして我々は「どういう特徴をだそうか」について大いに議論しました。結論は「日本ならではの特徴を出す必要がある」という事になりました。現在日本の製造業は、必ずしも調子がいいわけではありませんが、調子が悪いながらもいい部分はある、悪いならどうして悪いのだろうということを考えて、改善していくことも大事だと思ひまして、あえてそこにフォーカスする、そういうプログラムにしたい。別に製造業に限定するわけではありませんが、日本の実際の経営の仕組みがどういうふうになっているかを实地で体験できるような機会を作りたいということです。経営学の主要な分野の全ての授業が揃っている、ということに加えて、日本の実際の経営の現場を勉強できると、その2大特徴だけでもかなりユニークで魅力あるプログラムになったのではないかなと思っています。

奥 それこそ「実践知」ですね。大変貴重なお時間をありがとうございます。卒業生の皆さまには是非今後のステップアップした経営学部に期待していただければと思います。

奥 こちらこそ、どうもありがとうございました。



OB教授探訪

OB Professor Inquiry

生ある限り未来があり、

希望と奉仕がある

法政大学名誉教授 岡田裕之



名誉教授の状況を
知りたいと卒業生
からの要望があり、
定年後の17年間で
整理してみた。こ
れは、健康と年金
に保証された高齢
者の「日は好日」の記録かもしれないが。

1、社会活動…定年後、私はそのまま、日本戦没学生記念会（役員）に復帰した。この会
は、日本戦没学生の手記『きけわだつみのこ
え』1949年、に由来する平和を旨とする
団体で、1950年代、私が青春を捧げた
組織であった。小生が法政大学に職を求めた
のは、組織ともどもこの運動・生活が行詰ま
ったためである。1990年代末、この会は設
立時（1950年）八項目の記念事業の最後
の事業である「学生平和会館」建設計画に再
三失敗していて、建設の実現を定年退職した
小生に求めてきたのである。

私は、2000-03年、同会の理事長を引
き受け、大阪・京都・東京で大遺書展を開
催して散逸していた戦没学生の遺稿を集め、
6000万円募金を達成して、2006年、
東大赤門前のビル内1・2Fに『わだつみの
こえ記念館』を開設できた（もちろん私だけ
の力ではない）。記念館は遺稿の保存と展示
を行っている（月水金午後）ので、関心ある
人は本郷五丁目29-13赤門アビタシオン、を
訪問して欲しい。この運動に関連して、まだ
岩波文庫版『きけわだつみのこえ』校訂の
仕事が残っているが、2009年、著作『日
本戦没学生の思想』を刊行した。
2、研究活動…現役時代には夏冬の休暇しか

研究に集中できなかったが、定年後は「サン
デー毎日」で研究三昧である。中軸は、主宰
する月例の「法政大学世界経済研究会」での
報告とコメント・討論・下調べである。

2006年に再開（研究会の前身には長い歴
史がある）してから先月で第88回になった。
研究会は諸大学の名誉教授・現役教授・外務
省OB他、の研究者で構成されている。

私の研究主題は、1962年、法政大学に提
出した就職論文「世界市場の理論的・歴史的
性格について」、すなわち経済学原理と世界
市場関係の研究で、以来変らない。学生時代
「戦争と平和」を考え詰めながら、この主題
にたどりついた。説明すると、資本主義体制
は、先進諸国・工業化途上国・非工業化後発
国の三体制の絡み合う世界市場を舞台として
運動するが、世界市場は、16-18世紀の形成
（19世紀の作出と完成）20世紀前半の帝国主
義戦争・革命・恐慌による分裂から、後半の
体制対立の冷戦期を経て、現代の世界政治経
済の再統合という歴史的運動を展開する。資
本主義体制の反復循環を説明すべき経済学
原理Vと、世界政治経済史のA非可逆的変化
Vとを同時に説明する、説明したい、という
のが研究主題である。つまり、アポリアⅡ相
反の難問、である。

私は現役時代、A経済学原理Vについて『経
済原論上下』『貨幣の形成と進化』の三冊を、
世界市場のA非可逆的変化Vについては『社



岡田学部ゼミと

大学院研究会の歴史

A 前史 1940-50年代
1、『資本論』学習と再学習

1945年春、猪俣津南雄『極東に於ける主
義』の衝撃、47年、一高哲学研究会、物理学
志望からマルクス哲学・経済学研究へ、共産
党入党。51年春『資本論』邦訳で全巻（獄中）
読了、50-51年、東大内同志査問事件、共産
主義への根本疑問。

52-55年、わだつみ会平和運動における共産
党指導部との衝突等、反共産主義（＝反共産
党）の確信に至る、ただし『資本論』に代替
する理論の追求へ。運動家から『資本論』の
批判的研究へ転換、『資本論』全巻原文翻訳
完成後、法政大学院入学、久留間教授指導下
に『綱要』『学説史』および世界経済（恐慌）
を研究。

2、研究の拠点と起点

62年、助手論文「世界市場の具体的・歴史的
性格について（世界経済と経済学原理）」、経
営学部採用、『商業論』担当。

B 本史 60-90年代

1、第一期・マルクス商業資本論に依る一日
本流通業の分析、64-75年

戦後日本経済学のマルクス経済学からの出
発…第二次世界大戦敗北の分析、資本主義体
制に内在する矛盾＋日本資本主義の後進性、
思想弾圧・栄光の復活。59年、法政経営学部
の発足、経営学ブーム、アメリカ企業経営の
学習、流通革命論、伝統的卸売業の解体と大
規模小売業態の変革、マーケティング論。
マルクス経済学の実用上の欠陥…60年代高度
経済成長、日本経済は後進性Ⅲ二重構造を脱
却、68年世界第二の経済大国へ、ケインズ系
マクロ経済学の研究。

2、ロンドン大学・西欧・ソ連留学体験…ソ
連の体制批判的研究（反『資本論』の体制批
判）、イギリスにおける経済学の実状、72-
73年、a『資本論』の批判的展開による冷戦
分析。 bワルラス一般均衡論とマルクス経
済理論の等価性、欧米学界主流の状況、「マ
ルクス」は社会学・政治学・人類学の系統、
経済学における限界分析の仮設性、近代経済
学の仮説設定の自由性と多元性、『資本論』
の相対化

3、第二期…産業（組織・構造・連関）論
日本個別産業の分析 76-87年

学部ゼミの基礎理論、マルクス経済学（歴史
法則認識）から限界理論に立つ需給均衡基準
分析（仮説設定）への教育転換、岡田ゼミの
独自性、原理の転換と連続。70年代石油危機
日本産業構造の変革（重厚長大から軽薄短小
へ）。日本産業・経営・労働（日本型生産シ
ステム）の成果。

4、法政大学多摩地区全面移転阻止・市ヶ谷
キャンパス確保
「経営学部発展の五十年…その転換点におけ
る一教員の体験」、経営学部同窓会10周記念
講演、参照。

5、大学院ゼミⅡ法政大学社会主義経済研究
会（略称岡田研） 74-98年

範疇論による社会主義体制批判、『資本論』
の批判的展開、資本主義体制と社会主義体制
の等価批判から優劣比較へ前進。

6、第三期…国際貿易―日本産業構造の分析
88-98年

貿易論、日本経済学の特長、後進国から先進
国へ、貿易と産業構造の高度化。金融国際化
不良債権整理・金融恐慌。日本―東アジア
アメリカの三角貿易、EU地域統合・通貨統
合論、日米貿易摩擦、円高対応、多国籍企業、
産業内貿易論、94年、国際経済システム論講
義。99年、経済システム論の最終講義、演題
「経済原論50年―平和／体制／産業」

C 後史 2000年代

1、わだつみ運動への復帰、『わだつみのこえ』
記念館設立

99年、記念館建設運動の停滞混乱、理事長要請
2000-03年、理事長となり記念館建設責
任者、01-02年、大阪・京都・東京の大書展
実施。03-06年、岩波文庫『新版・第二集き
けわだつみのこえ』編集、6000万円募
金達成。09年『日本戦没学生の思想』
2、世界経済研究会、岡田経済学の主題

06年

大学院ゼミⅢ比較経済体制研究会復活、ただ
し法政大学イノベーション・マネージメント・
センターの「世界経済研究プロジェクト」で
発足、09年、プロジェクトから独立。
主題…世界経済研究、日米欧先進諸国・旧ソ
連東欧・中国・中東他途上国など、理論・現
状分析・現地報告・書評学界展望（サーヴェ
イ）、特殊研究など。

（注記：岡田先生の元原稿を、編集者が要点のみに圧縮しました。）



私の抱負

フェンシング部キャプテン
経営学部経営学科 大崎葵一

私は体育会フェンシング部に所属しており、また本年度はキャプテンを務めております。昨年度は全日本学生選手権の個人サーブルにおいて優勝し、また男子サーブル団体としては学生4大会（リーグ戦・王座選手権・関東学生選手権・全日本学生選手権）で4冠を達成することが出来ました。また韓国の光州で開催されたユニバーシアード大会に出場することが出来ました。しかし、全日本選手権では個人、団体共に、優勝することが出来ず、悔しい思いをしました。本年度はキャプテンを務めることになりましたので、体育会フェンシング部として学生4大会に加えて、全日本選手権を含む5冠を各種目で奪取できるような強いチームにしていきたいです。いつも指導してくださる監督始め、コーチの方々やOBの諸先輩方への感謝の気持ちを忘れることのないように日々率先して練習に励み、活気あふれるチームになるように率いていきたいと思っています。体育会フェンシング部の活動に集中して取り組み、大学勉強にも積極的に取り組み、文武両道にも努めていきたいと思っています。現在、私は経営学部全般の授業を広く履修していますが、その中でも特に経営管理やリ



ダーシップに興味が湧きました。今年度はそれらに関連する授業を積極的に履修したいと思います。経営管理をする上での諸学説は時代背景により移り変わっていくもの、人間の心理や欲求により変化することが大変興味深く、リーダーシップについても、私が将来企業に勤めた際に仕事に大いに活かせることだと考えています。また本年度、キャプテンとして、体育会フェンシング部という組織をまとめる際にも経営学部で学んでいることが、大いに活かしていけたらと思います。将来やりたいことなどは決めておりませんが、本年度、文武両道に励むと共に、知見を広め、経験を積み、法政大学で自らの将来について考えていけるキャンパスライフにしていきたいです。



2016年度に

向けた抱負

広報委員会委員長 富所紀貴

経営学部広報委員会も発足から二年が経ち、Facebookの「いいね!」の数も無事2000を超え多くの方々に情報を発信することができました。これは、昨年度の反省を



そのため、新たに学生の使用するSNSであるTwitterのアカウントから情報発信するなどの対策を取り、来年度は学生からの認知拡大を委員会としての目標にし

生かし、積極的にOB・OGの方々に接触し、お話を伺うことができた成果かと思っています。また委員会全体に積極的に活動したい、という雰囲気があり、来年度もさらに多くの情報を発信していきたいと考えております。ただ新たな年度を迎えるにあたり私は一つ気になっていることがあります。順調に「いいね!」の数が増えている反面、法政大学の学生からの認知度がまだまだ低いという現状についてです。このままでは社会で活躍されているOB・OGの方々の貴重なお話を学生に届けることができません。加えて今後も広報委員会を存続させていくためにも学生からの認知は大きな課題になるだろうと思います。

ようと思います。広報委員会発足時から所属しているメンバーも私を含め後一年で委員会から離れることになり、後輩たちに伝えていかなくてはいいけないことも多くあります。これからの一年は委員長として、後輩に活動しやすい委員会を引き継ぐことができるように、委員会としての基盤を固めることをもう一つの個人的な目標として掲げたいと思います。



報恩謝徳

学術ゼミナール委員会委員長 滝沢はるか

花盛りも過ぎ、新芽の緑がまぶしい頃となりました。経営学部学術ゼミナール委員会は、①学部生へ向けた講演会の企画・運営、②学部のゼミの統括、③外部の学術大会の運営という三本柱を軸として活動しております。



昨年、委員長である伊藤先輩から引き継ぎ、今年度委員長を務めるにあたり、題である「報恩謝徳」を抱負に掲げさせていただきました。これは、経営学部学術ゼミナール委員会が現在まで伝統ある団体として存続し活動が続いているのは、偉大なる歴代先輩方のご活躍によるものであると実感しているためです。先輩方が長年築

き上げてこられた学部内外における当委員会への信頼や連関をまもり、更なる活動の場を広げられるようにこれから邁進してまいります。また、昨年度は多くの新入生が当委員会に所属を決め、積極的に参加してくれたため非常に活発な話し合いが出来たように思っております。今年度から新たに後輩を迎える立場となる彼らがさらに成長を遂げられるような場をもうけ、上級生も皆の手本となるような行動を心掛け、お互いに高めあえる一年にしたいと考えております。最後に、偉大なる先輩方の発行していただける会報誌にて抱負を述べさせていただきたく貴重な機会をいただきましたことを心より感謝申し上げます。





岡三オンライン証券株式会社

取締役社長 大杉 茂
営業推進部 馬場恒行

インタビュー
広報委員会 富所紀貴
平山あい

今回私たちは法政大学経営学部を卒業され、岡三オンライン証券株式会社 取締役社長 大杉茂さん、同じく岡三オンライン証券株式会社 営業推進部 馬場恒行さんにインタビューをしました！

平山「今日はよろしくお願ひします！初めて現在お仕事はどのようなことをされていますか？」

大杉さん「私も岡三オンライン証券は創業90周年をほこる岡三証券グループのネット専門の証券会社です。今はインターネットを通じて証券取引をビジネスとしている会社です。仕事はというと、私は社長という立場です。で経営全般ということになります。」

平山「ありがとうございます！社長という役職の方がなされるお仕事について伺うのは今回が初めてなのでとても新鮮です！馬場さんはどういったお仕事をなさっているのですか？」

馬場さん「僕は営業推進部という営業部門の部署になります。インターネット專業なので、いわゆる営業マンがいて株を売りに行くといったことは一切なく、ホームページ上でお客様にキャンペーンなどの告知を行い、取引のきっかけをつくるのが営業推進部の仕事になります。」

平山「なるほど、対面で接しないお客様とのコミュニケーションは難しそうですね。大杉様はどうしてこちらの会社に入ることを決断されたのですか？」

大杉さん「私は元々、岡三証券株式会社に入

社しました。元々大学に入った時に野田先生という教授がいらして証券市場論という授業をとっていて、それ以前からも身近な人が株をやっていた影響もあり、株というものに興味がありました。大学三年の時に証券のゼミに入り、就職活動の時も銀行や証券会社を受けました。その中で特に波長の合った岡三証券株式会社に決めました。」

平山「ありがとうございます！波長が合うというのも会社を選ぶ際には大事なのですね！続いて仕事が大変だと感じるのはどのような時ですか？」

大杉さん「仕事は常に変です。その中でも営業という仕事では、我々はお客様に儲けてもらおうと思つて、おすすめやアドバイスをしますが、我々の予想とは逆に相場が動いてしまうことも時として起こります。そこで結果としてお客様に損をさせてしまうようなことになることも辛いです。営業という仕事を経験した時に特にそれを痛感しました。馬場さんはどうです？」

馬場さん「僕は直にお客様とのやり取りをしたことがないので。僕が大変だと思つるのは私はインターネット越しにお客様とコミュニケーションをとるのですが、大多数に送つたメールをお客様に読んでもらうことは非常に難しいです。そのために興味の湧くタイトルは何か。などお客様とのコミュニケーションの方法を考えるのは難しいです。」

富所「お客様に利益を得てもらいたいと思ひ仕事をしているのに、損をさせてしまう。営業という仕事辛いと言われる理由の一つが分かつた気がします。また宣伝等のメールなども確かに読まないことが多かつたですが、その改善のために、多くの工夫がなされているのです。では逆にこの仕事をやっていてよかつたなと感じた時はどのような時でしたか？」

大杉さん「若い頃と現在とでは、よかつたと思ふ部分は異なりますが、やはり一貫して言えるのはお客様に『ありがとう！』『儲かつたよ！』など感謝をいただいた時、お客様のためになつているのだと感じるときにやっていてよかつたと感じます。あと昔、会社の上場のお手伝いをした時などは、この会社は自分がかつた時など、それが今でも形としてのこつていくという時にはとても達成感がありました。」

富所「形として後世に残る仕事というのは個

人的にとっても懂れるものです！馬場さんはどういつた時にやりがいを感じますか？」

馬場さん「僕の場合はお客様に直接感謝をされるということはないですが、キャンペーンなどを行い、結果取引が増えた時などはやはりうれしいと思います。」

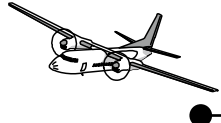
富所「ありがとうございます！最後に法政大学から証券会社を志望する学生も多いと思ひます！そんな学生にアドバイスなどがあればお願ひします。」

大杉さん「私が大切だと思ふのはコミュニケーション能力です。学生には臆することなく様々なところの人とコミュニケーションをとることが必要なと思ひます。そして学生のうちにネットワークを作ることが一番大事だと思ひます。学内の友人はもちろんですが、学外の友人、ネットワークを作ることが、実社会に出たときにはとても重要になつてきますよ。馬場さんはどう思ひます？」

馬場さん「人によつて社会に出てから、『あしとおけばよかつた』と思ふことは違ふと思ひますが、たいていの人が感じるのとは、もつと勉強しておけばよかつたというものだと思います。社会人になつた時のスタートダッシュの差にもなりますし、興味があつて、時間がかけられて、周りに答えてくれる人がいる環境に恵まれているのは大学生が最後になりますから。」

富所「今回のお話を聞いて改めて氣を引き締めようと思ひます。勉強はもちろん学外の人との接触も積極的に行いたいと思ひます。お二人とも今日はお忙しい中、貴重なお話ありがとうございました！」





経営学部同窓会

Alumni association

2016年度 定期総会・講演会・懇親会のご案内

日時 2016年7月9日(土) 14:00～17:30(予定)

場所 法政大学 市ヶ谷キャンパス 55・58年館 855教室
58年館地下1階 第一学生食堂
(JR・地下鉄/市ヶ谷・飯田橋下車)

連絡先 法政大学経営学部同窓会事務局 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学 ボアソナード・タワー17階 TEL/FAX 03(5382)9344

【第1部】 2016年度定期総会 (14:00～15:00 予定)

2015年度活動報告・会計報告、2016年度事業計画など

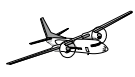
【第2部】 講演会 (15:00～16:00 予定)

演題:「同一労働・同一賃金」
演者: 法政大学経営学部長 奥西 好夫 先生

【第3部】 懇親会 (16:00～17:30 予定)

総会参加者、教職員、学生、ゼミOB・OG など
法政大学 市ヶ谷キャンパス 58年館地下1階 第一学生食堂

会費 3,000円



会費納入のお願い

「経営学部同窓会」は現在、「一般社団法人 法政大学校友会」に所属しております。法政大学の卒業生の全員が「校友会」に所属していることとなりますが、所属している各同窓会では独自に活動及び組織の運営をおこなっております。「経営学部同窓会」も21年間の歴史のもと、皆さん同窓会員の会費にて活動をおこなってきました。しかし近年の「経営学部同窓会」の活動のための、会費納入率の低下が否めません。「経営学部同窓会」は皆さんの会費にて活動をおこなっており、これからも経営学部同窓会の存続・活動のため、皆さんのご協力及び会費の納入を切にお願いする次第です。

経営学部同窓会会長 岩井 昭

同窓会のホームページはこちらから・・・
URL:<http://www.houseikeieidousoukai.com/>

法政大学経営学部同窓会

検索

住所変更は必ずご連絡下さい！

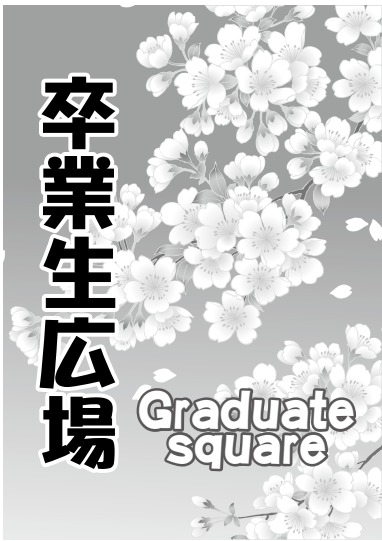
個人情報保護法により、OB・OGの皆様の住所が大学から入手できなくなりました。そのため、大学から送られてくる資料内のハガキで変更依頼をしても、同窓会で管理している住所は変わりません。必ず下記のいずれかの方法で同窓会までご連絡ください。

1 電話もしくはファックスにて

同窓会事務局 **TEL/FAX 03-5382-9344**

2 メールにて

以下のホームページよりメールを送って下さい。
<http://www.houseikeieidousoukai.com/inquiry/>



広報委員会の思い出

経営学部経営戦略学科

伊藤真子
本間千晴



法政大学経営学部の魅力を在学生、OB・OGの方々、保護者の方々、また高校3年生に向けて発信する広報委員会が、私たちは大学3年生より約2年間活動してきました。そんな私たちから今回、広報委員会での思い出をここに記させて頂きます。

私（伊藤）は広報委員で、人との繋がり、を強く感じると同時に、大変恵まれた環境で活動させて頂いたことに深く感謝しています。そもそも私がこの組織に入ろうと決意したのは、1度きりの大学生活をより充実させたい、そして人との関わりを広く持ちたい、という思いがあったからです。先方へのメールのやり取りから当日の取材まで、私たちが主体とな



って取り組んだこと、そして各方面でご活躍される卒業生の方々から直に聞いたお話は、自身の大きな糧になったと強く感じています。

私（本間）は広報活動をする中で、日々の学部の授

業がより楽しくなったと感じました。取材で授業やゼミを紹介する場面が何度かあり、その度に受講する授業を主観的、客観的に深く考えることができました。伝える機会があったからこそ、専門分野をもっと学びたいという思いに繋がりました。Facebookを通しての発信は初めてで、試行錯誤の日々でしたが、自分で書いた記事を、読者の方に目を通して頂けたことがとても嬉しかったです。



私たちは広報委員会を通して、OB・OGの方々に取材をする貴重な機会や、経営学部の魅力を発信する機会を頂き、その毎日が非常に楽しく勉強になるものでした。しかし一方で取材前の下調べや、進め方、社会人の方とのコミュニケーション方法で悩み、反省することも多々ありました。先輩方と携わること、そして学部を伝える経験で得たものを活かし、4月からの社会人生活も一生懸命頑張りたいと思います。

取材にご協力頂いた皆様、同窓会の皆様、そして一緒に活動を支えてくれた広報委員会の皆さんに心から感謝しています。ありがとうございました。

学術ゼミナール委員会の思い出

の思い出

経営学部経営戦略学科 中川夕奈

法政大学経営学部同窓会様、お初にお目にかかります。二年次、三年次と入ゼミ局の局長を務めさせて頂きました、経営学部経営戦



略学科の中川夕奈と申します。

まず初めに、この場をお借りして、常に私達の活動を支えてくださる、経営学部同窓会様、経営学部事務課様に厚く御礼申し上げます。今後とも学術ゼミナール委員会一同、一所懸命に活動していきたく存じます。温かくお見守りいただければ、幸いです。

今回、『学術ゼミナールでの思い出』というテーマでご寄稿させて頂いたにあたり、三年間の活動を懐かしく振り返っておりました。思い出深いことは数限りなく、本当に多々ありますが、どの思い出にも共通して言えることは、「人に恵まれた四年間だった」ということです。

初めに、まず何よりも先輩方です。一年生の頃、私は簡易な資料作成一つまともにできず、先輩のお手を煩わせてばかりいました。二年次も、困りごとがある度に相談し、ご助力をいただいていたいました。ですが先輩方は、そんな私に呆れることなく、いつも懇切丁寧に指導くださいました。相当頼りなかつた私が、入ゼミ局長を何とか務め終えることが出来たのは、そんな素晴らしい先輩方のご指導のお蔭だと思っています。

また、同期達とはこの三年間、大いに議論し、助け合い、笑い合っ、沢山の大切な時間を共有しました。彼らがいなければ、私がこんなにも、大学から去り難い、と思う事は無かつたと思います。

私の大学生活で最も幸福だったことの一つは、このような素晴らしい出会いの中で、三年間、



活動ができたことです。

今後は経営学部の卒業生として、後輩達を見守る側になります。彼らが、学術ゼミナールの活動を通して、多くの出会いと、かけがえない時間を得ることができたら、こんなに嬉しいことはありません。



公認会計士試験に合格して

経営学部経営学科 佐藤 直



私が公認会計士を目指した時期は、高校3年生の3学期でした。当時、中学から法政で6年間サッカー部に在籍しており、ほぼサッカーしか中高でやっていなかった私は、大学受験すらも経験しておらず、このままの人間で社会に出た時に活躍できるのかと、自分の将来に関して不安を抱いていました。そこで進学する学部が経営学部であったこと、昔から数字が好きだったことから、三大国家資格の1つである公認会計士を目指そうと考えました。

本格的に資格の勉強を始めたのは大学2年ごろからでした。大学1年生の頃はサークルにバイトといういわゆる一般的な大学生の生活を送っており、そして中高とずっとサッカーをやっていた私にとって、平均して1日8時間以上椅子に座って勉強することは、人生であまりない経験であり初めは慣れないものでしたが、家族を始め周りの方々が応援し



てくれたこと、2人の優秀な勉強仲間に出会えたことや、自分自身、必ず在学中合格を果たすのだという強い心を常にもっていたため、途

中投げ出したくなることは1回もありませんでした。私は、2次試験まである中の1次試験に苦しんだのですが、その1次試験に合格したときは嬉しくて涙が出たことを今でも覚えております。当時の勉強仲間とは、試験の終わった今でも、共にフットサルをしたり、飲みに行くような間柄で、今後も切磋琢磨していくことのできる関係です。

卒業後は、監査法人入所前にオーストラリアに約2年留学して英語とITを学んでくる予定です。そしてまだ試験を終えたばかりで視野の狭い自分にとって留学は日本を外から見る良い機会だと思っているため、そこで学んだことを社会人生活に役立てていきたいと考えています。

また、今後は受験時代の、試験に受かることがゴールという概念もなくなり、ゴールから自分で作るという日々が始まると思います。が、結果に繋がる1つ1つのプロセスを大事にして日々周りへの感謝の気持ちと向上心を忘れない人間で在りたいです。



平成二十七年
度
経営学部同窓会
事業報告

一、東京六大学野球春季リーグ開幕戦 応援観戦
平成二十七年四月十一日（土）
田中総長の始球式・対慶應大学
二、定期総会・講演会 懇親会開催
経営学部同窓会創設二十周年記念定期総会
平成二十七年七月十九日（日）十二時～十三時
市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー二十六階会議室
平成二十六年度活動 事業報告及び会計報告
平成二十七年事業計画案及び予算案承認 規約改正 等
二十周年記念講演会
同日十三時～十四時
演題一「我が経営学部の挑戦に期待する」
講師 清成忠男名誉教授・元法政大学総長
演題二「マーケティングの新潮流・リレーシヨンの新潮流」
講師 竹内学部長
懇親会
同日十四時～十六時
市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー 二十六階ラウンジ
三、東京六大学野球秋季リーグ戦応援観戦
平成二十七年十月十八日（日）
対早稲田大学
四、トップマネジメントセミナー開催
平成二十七年十一月四日（水） 十八時三十分～二十時
市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー 二十六階スカイホール
演題「コンビニ業界・Web業界の第一線で活躍

するOGに聞くマーケティング」
講師 株式会社ローソン マーケティング統括本部 デジタルコミュニケーションプロジェクトリーダー 白井明子氏
五、学部生・同窓会合同広報委員会開催
平成二十八年一月十二日午後七時
七〇六教室で学部生が主体の経営学部広報委員会との合同委員会
六、経営学部教授会との懇談会開催
平成二十八年一月二十二日（金）午後七時
ボアソナードタワー スタッフクラブにて開催
七、経営学部卒業生 成績優秀者表彰
平成二十八年三月二十四日（木）
成績優秀者七名を表彰し 記念品贈呈
八、常任幹事会開催
今年度は十回開催

平成二十八
年度
経営学部同窓会
事業計画(案)

一、東京六大学野球春季リーグ開幕戦 応援観戦
平成二十八年 四月九日（土）に神宮球場にて熱烈応援予定
・詳細はホームページにて広報を行う
二、定期総会・講演会・懇親会開催
平成二十八年七月九日（土）十四時～十五時
市ヶ谷キャンパス・五五・五八年館 八五五教室
平成二十七年活動・事業報告及び会計報告
平成二十八年事業計画案及び予算案承認
講演会
同日十五時～十六時
演題「同一労働・同一賃

金」
講師 経営学部長 奥西好夫先生
懇親会
同日十六時～十七時半
市ヶ谷キャンパス・五五・五八年館 第一学生食堂
会費三千円
三、「法政フェア」への参加
平成二十八年九月二十五日（日）開催
経営学部同総会のブース開設
経営学部教授と経営学部同窓生による講演会
演題「未定」
講師 未定
四、トップマネジメントセミナー開催
平成二十八年十月十九日（水） 十八時三十分～二十時
市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー 二十六階スカイホール
演題「未定」
講師 未定
・詳細はホームページにて広報を行う
五、東京六大学野球秋季リーグ戦応援観戦
平成二十八年十月 神宮球場にて
・詳細はホームページにて広報を行う
六、落語を聞く会開催
平成二十八年十二月、又は平成二十九年一月開催
・詳細はホームページにて広報を行う
七、一泊懇親会開催
平成二十九年一月開催
・詳細はホームページにて広報を行う
八、経営学部教授会との懇談会開催
平成二十九年一月二十日（金）
ボアソナードタワー スタッフクラブ
九、経営学部卒業生（平成二十八年三月卒業）成績優秀者表彰
平成二十九年三月二十四日（金）
会場等は未定
十、常任幹事会開催
年度内に十回程度開催予定

2015 年度決算報告

【収入の部】	決算	備考
前年度繰越金	434,696	
年会費	411,000	137 名（@3,000 円）
懇親会費	329,000	
寄付金	517,000	校友会 / 他学部同窓会 / 個人
校友会補助金	251,566	校友会より活動補助
名刺広告料	96,000	32 名（@3,000 円）
受取利息	94	
合計	2,039,356	

【支出の部】	決算	備考
一般通信費	郵送料・宅配便	7,221
一般印刷費	コピー代・名刺印刷	19,404
消耗品費	事務用品	762
会報発行費	20 周年記念誌印刷費	244,836
	諸雑費	36,000
	会報 15 号印刷費	124,200
	計	405,036
会報発送費	20 周年記念誌発送費	154,296
	会報 15 号発送費	20,380
	計	174,676
総会開催費	懇親会費	174,000
	諸雑費	63,430
	計	237,430
TMS 開催費 (トップマネジメントセミナー)	看板代	54,000
	懇親会費	86,000
	諸雑費	32,796
	計	172,796
ホームページ運営費		136,800
広告掲載料		46,666
卒業生成績優秀者記念品代		34,884
教授会との懇親会費		50,000
銀行振込手数料		18,552
慶弔費		92,793
同窓会協議会会費		15,000
期末未払金		-116,301
次年度繰越金		743,637
合計		2,039,356

2016 年度予算案

【収入の部】	予算
前年度繰越金	743,637
年会費	450,000
懇親会費	180,000
寄付金	500,000
校友会補助金	100,000
受取利息	100
合計	1,973,737

【支出の部】		予算
一般通信費	郵送料・宅配便	10,000
一般印刷費	コピー代・名刺印刷	20,000
消耗品費	事務用品	1,000
会報発行費	会報3号(16巻)印刷費	150,000
	会報4号(17巻)印刷費	150,000
	諸雑費	40,000
	計	340,000
会報発送費	会報3号(16巻)発送費	25,000
	会報4号(17巻)発送費	25,000
	計	50,000
総会開催費	懇親会費	100,000
	諸雑費	5,000
	計	105,000
TMS 開催費 (トップマネジメントセミナー)	看板代	60,000
	懇親会費	100,000
	諸雑費	35,000
	計	195,000
ホームページ運営費		140,000
広告掲載料		50,000
卒業生成績優秀者記念品代		50,000
教授会との懇親会費		60,000
銀行振込手数料		20,000
慶弔費		100,000
同窓会協議会会費		10,000
未払金支払		116,301
次年度繰越金		706,436
合計		1,973,737

事務局だより

市ヶ谷キャンパスでは再開発が進み、シニア世代と呼ばれるようになった私達が学生だった頃の様子とは違い、浦島太郎状態になると思う。2019年にはシンボル校舎であった55・58年館の解体工事がはじまる。今年9月には「富士見ゲート」という新校舎が立ち上がり、こちらの雄姿も見えてきた。さて、生協の学食や学生時代には床屋や靴屋があった地下街も55・58年館の解体とともに完全に姿を消すこととなる。思い起こせば学生時代は昼食代を惜しんで当時100円台のカレィやきつねそばやうどんをよく食べていた。定食も260円の法政ランチは食べられたが330円のCOPランチはもったいなくて、めったに食べられなかった。揚げ物の宝庫&デザート付きのバグバクランチシリーズも大学職員になるまで手が出せなかった。すしコーナーのにぎりは、卒業式に1度だけ、今日は特別記念日だと仲間と食べたのを覚えていた。そんな時代が懐かしいのは、私だけだろうか。最近では、学生の朝食離れを防ぐため100円朝食（学生しか食べれない）を期間限定で実施していたり、大学も食育に力を入れている。「富士見ゲート」にできるカフェは、エスプレッソの本場イタリアで一番飲まれている「LAVAZZA（ラバッツァ）」の本格コーヒーが180円から飲めるということである。オリジナルパンケーキやサンドイッチも販売される。3階にできるカフェテリア「つどひ」は、座席数502席を確保した大食堂で、様々なメニューが用意されるということである。グローバル対応のためハラル食も提供されるという。

杉山 孝（昭和六二年卒）

編集後記

飯田橋駅前の億ション「サクラテラス」を横目に外堀通りを歩くと今年も見事に桜が満開、ブルーシートで花見酒の人々を抜け、旧朝鮮総連ビル周辺を警備する方々を通り過ぎると母校が見えてくる。そびえ立つボアソナードタワーの正面には、建設中の壮大な富士を見るような富士見ゲートが見えてくる。グローバルな法政を象徴しているようで、同窓生としては頼もしい限りである。このボアソナードタワーの校友談話室で編集会議だ。

この同窓会会報も第三号となれば、編集スタッフ一同、慣れて簡単と思いきや次々と問題が起きてくる。教授陣や現役生、卒業生などの原稿の校正は、やはりひと時も気が抜けない。細心の注意を払ってもボロが出る。既会報読者のわが同窓会会員諸氏も印刷された創刊号、第二号の編集ミスを発見されただろうか。

今号は、奥西新経営学部長をお迎えして、岩井経営学部同窓会会長との対談からスタートだ。歴代経営学部長と同様に親身に大学、学生、同窓会などについて考えてくださり、心強い。この会報は教授や学生の参加なくして成り立たないからだ。

さて、実際の編集作業は便利になった。各所への原稿依頼、その依頼原稿や写真の受け取り、編集委員相互の校正作業などのやり取りは、基本的にすべてメールにしたからだ。世の中まさにインターネット全盛で、パソコンが扱えないと物事が効率的に進められない。そのためリアルな編集会議とは別にバーチャルなインターネット編集会議も行った。

このメールの活用で上京する回数が減ったのは正直有り難い。仕事は現役リタイヤでも人生にリタイヤはなく、現役を退いた編集委員各自もいろいろな問題を抱え、決して暇ではないからだ。ただ、上京しないのも寂しい気もするから不思議だ。やはり、ロートルは直接、顔を突き合わせた会議に母校愛が深いようだ。今号も無事、印刷に漕ぎ着けたことに、すべての関係者に多々感謝である。次号はOB・OG諸氏の寄稿をお待ちし、より充実した会報としたらうか。

中西文行（昭和五三年卒）